

決算説明会

業績概要・経営方針

2006年度決算


(2006年4月1日～2007年3月31日)

2007年5月16日

代表取締役社長 庄田 隆



第一三共株式会社



決算概況

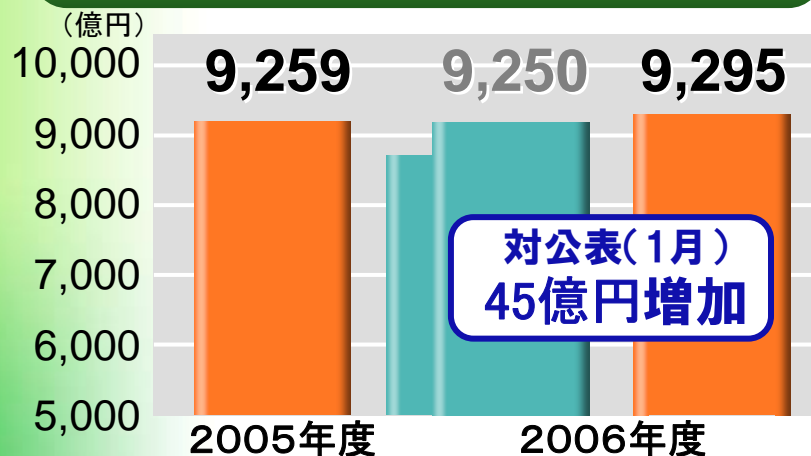
2007年3月期
決算内容について



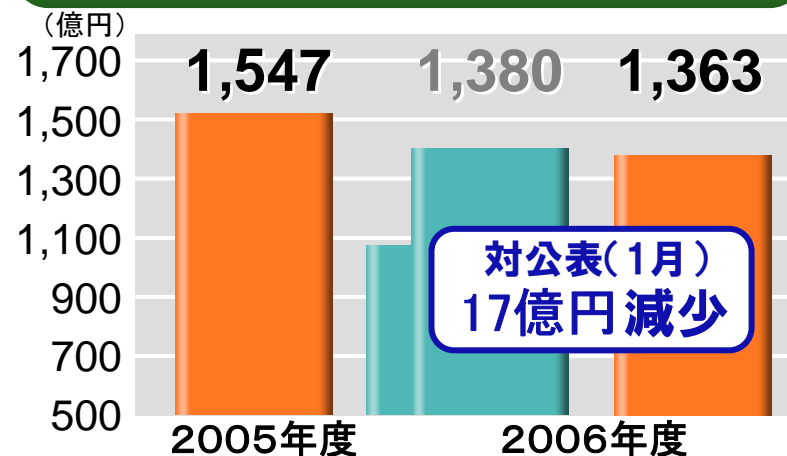
第一三共株式会社

2006年度連結決算(実績)の概要

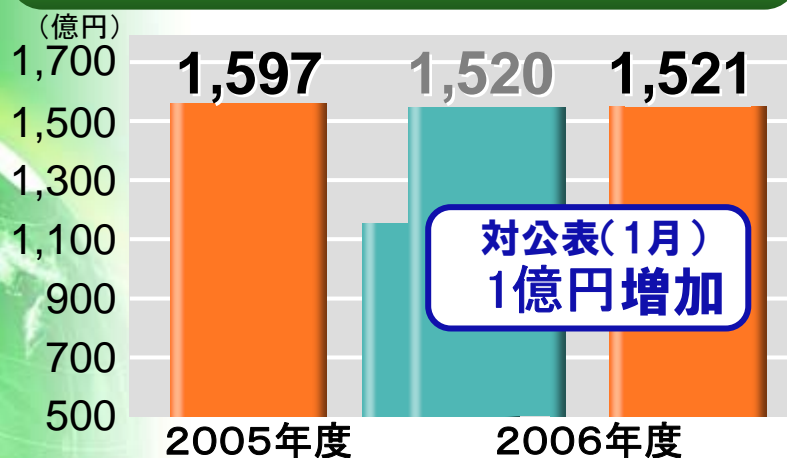
売上高



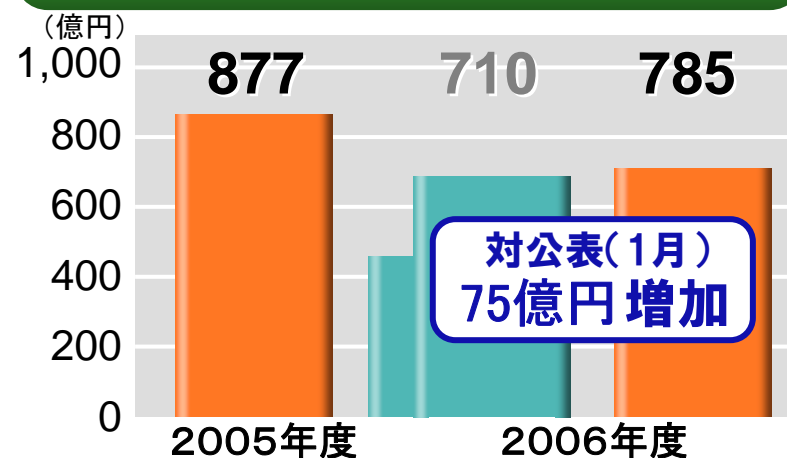
営業利益



経常利益



当期純利益



■ 実績値
 ■ 公表値

注：決算期の変更により、2006年度はDSI,LPJについて2006年1月～2007年3月の15ヶ月分を計上。



第一三共株式会社

主要製品の推移

● 主要製品売上高

(単位:億円)

製品名	2005年度	2006年度予想	2006年度実績				
	実績 ①	1月公表 ②	③	対公表	対前年増減		
				③-②	③-①	参考値	
GLOBAL	オルメサルタン < 血圧降下剤 >	924	1,613	1,603	-10	679	523
	レボフロキサシン < 広範囲経口抗菌剤 >	1,015	1,037	1,041	4	26	
	プラバスタチン < 高脂血症治療剤 >	1,432	925	935	10	-497	
長 日	カルブロック < 血圧降下剤 >	64	91	88	-3	24	
	アーチスト < 血圧降下剤 >	182	195	193	-2	11	
	クレメジン < 慢性腎不全用剤 >	130	124	122	-2	-8	
	ロキソニン < 鎮痛・抗炎症・解熱剤 >	290	311	309	-2	19	
	オムニパーク < 非イオン性造影剤 >	347	316	315	-1	-32	
	ユリーフ < 排尿障害改善剤 >	-	-	23	-	-	
	ヴェノファー < 貧血治療剤 >	226	347	377	30	151	82
米	ウェルコール < 高脂血症治療剤 >	148	229	232	3	84	45

注: 決算期の変更により、2006年度はDSI, LPIについて2006年1月~2007年3月の15ヶ月分を計上。

また、これによる影響を除外した増減額を参考値として表示。

注: レボフロキサシンについてはアジア地域等での売上を含めて過去に遡って再集計。

業績差異の理由(対1月公表)

1. 連結売上高 9,295億円 (+45億円)

■ 主要製品の売上

- プラバスタチン (+10億円)
- オルメサルタン (-10億円)
- ヴェノファー (+30億円)
- レボフロキサシン (+4億円)

2. 連結営業利益 1,363億円 (-17億円)

- 売上高増加に連動した原価の増 (+27億円)
- 販売費および一般管理費の増 (+35億円)
 - 為替変動による換算差額
 - 研究開発費の増嵩

3. 当期純利益 785億円 (+75億円)

- 投資有価証券売却、並びに関係会社の株式処分に伴う特別利益の増

増減の理由(2005年度実績 ⇒ 2006年度実績)

1. 連結売上高 9,295億円 (+36億円)

- 特殊要因 (-103億円)
 - 非医薬事業等の外部化 (-643億円)
 - ゼファーマの新規連結 (+225億円)
 - 米国子会社の決算期変更 (+315億円)
- 主要製品の売上拡大等 (+139億円)
 - オルメサルタン (+523億円)
 - プラバスタチン (-497億円)
 - ヴェノファー (+82億円)
 - ウェルコール (+45億円)

2. 連結営業利益 1,363億円 (-184億円)

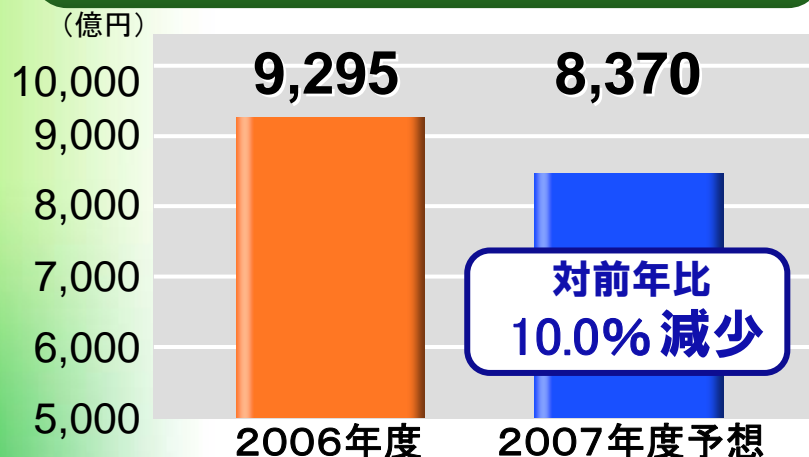
- 原価率改善 (31.4%⇒28.5%) による粗利益の増 (+291億円)
- 販売費および一般管理費の増加 (+475億円)
 - 研究開発費の増 (+119億円)
 - ゼファーマ 販管費 (+123億円)
 - DSI 販促費増 (+209億円)・・・Benicar利益シェア支払い等

3. 当期純利益 785億円 (-91億円)

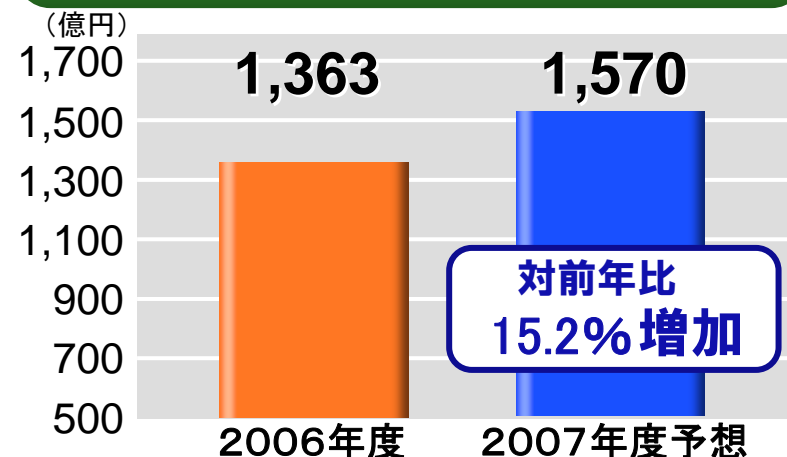
- DSIを中心とする営業外収支の改善 (+108億円)
- 特別利益(+666億円) ● 関係会社株式処分益 ● 投資有価証券売却益 等
- 特別損失(+690億円) ● 事業統合関連損失 等

2007年度連結業績(予想)の概要

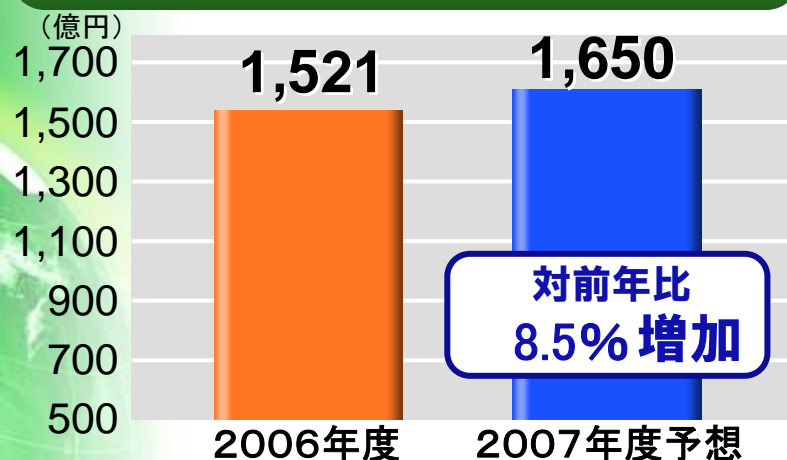
売上高



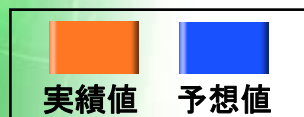
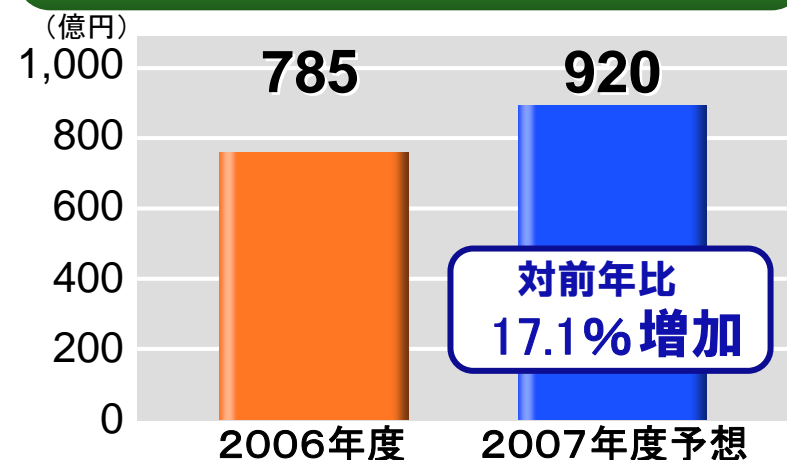
営業利益



経常利益



当期純利益



注: 決算期変更により、2006年度はDSI,LPIIについて2006年1月～2007年3月の15ヶ月分を計上。
同様に2007年度はDSEについて、
2007年1月～2008年3月の15ヶ月分を計上。

主要製品の売上高計画

● 主要製品売上高

(単位:億円)

製品名		2006年度実績	2007年度計画		
		①	②	対前年増減	
				②-①	参考値
GLOBAL	オルメサルタン <血圧降下剤>	1,603	1,950	347	443
	レボフロキサシン <広範囲経口抗菌剤>	1,041	1,080	39	
	プラバスタチン <高脂血症治療剤>	935	780	-155	-170
長 日	カルブロック <血圧降下剤>	88	135	47	
	アーチスト <血圧降下剤>	193	230	37	
	クレメジン <慢性腎不全用剤>	122	130	8	
	ロキソニン <鎮痛・抗炎症・解熱剤>	313	350	41	
	オムニパーク <非イオン性造影剤>	315	340	25	
	ユリーフ <排尿障害改善剤>	23	80	57	
圃 米	ヴェノファー <貧血治療剤>	377	210	-167	-98
	ウェルコール <高脂血症治療剤・2型糖尿病>	232	225	-7	32

注: 決算期変更により、2006年度はDSI,LPIについて2006年1月~2007年3月の15ヶ月分を計上。
同様に2007年度はDSEについて、2007年1月~2008年3月の15ヶ月分を計上。
また、これらによる影響を除外した増減額を参考値として表示。

増減の理由(2006年度実績 ⇒ 2007年度予想)

1. 連結売上高 8,370億円 (-925億円)

■ 特殊要因 (-1,237億円)

- 非医薬品事業等の外部化 (-1,042億円)
- 米国子会社決算期変更 (-315億円)
- 欧州子会社決算期変更 (+120億円)

■ 主要製品の売上拡大等 (+312億円)

- オルメサルタン (+443億円)
- カルブロック (+47億円)
- アーチスト (+37億円)
- プラバスタチン (-170億円)
- ヴェノファー (-98億円)
- ユリーフ (+57億円)

2. 連結営業利益 1,570億円 (+207億円)

■ 原価および販管費の減少 (-1,132億円)

- 上記特殊要因に関わるもの (-1,075億円)
- その他 (-57億円) {
 - ・ 要員適正化を中心とするシナジー効果・・・減少要因
 - ・ 海外事業基盤強化などの先行投資・・・増加要因

3. 当期純利益 920億円 (+135億円)

■ 営業外収支 (-78億円)

■ 特別損益 (+202億円)

■ 法人税率の上昇 (対税引前利益37.9%⇒42.5%)

主要経営指標

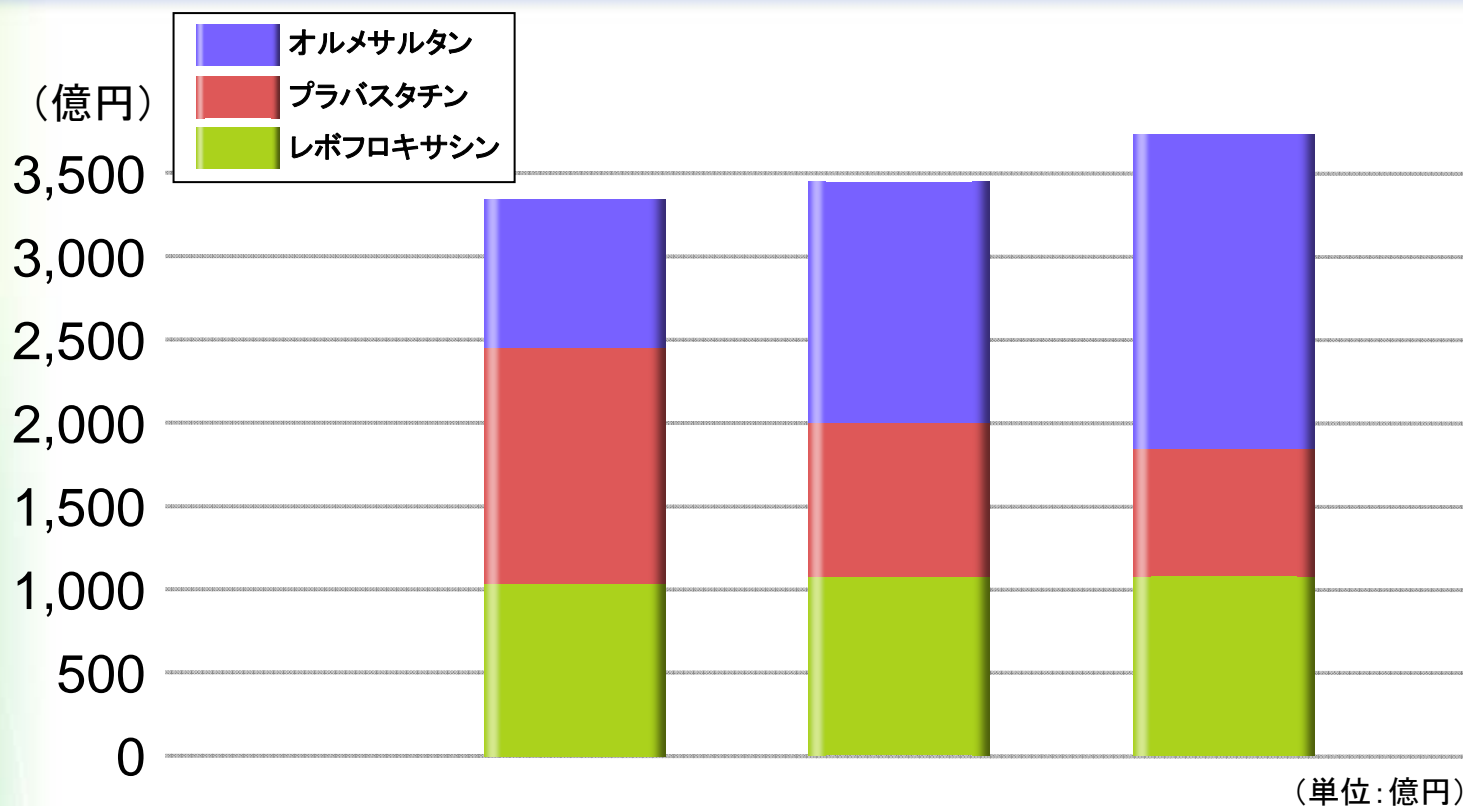
	単位	2005年度 実績	2006年度 実績	2007年度 予想
1株当り当期純利益	円	119.49	107.75	126.2
1株当り配当金	円	50*	60	70
配当性向	%	40.5%*	55.7%	55.5%
期末発行済株式数	百万株	729	729	(729)
総資産	億円	15,961	16,368	
純資産	億円	12,375	12,721	
自己資本比率	%	77.5%	77.5%	
純資産配当率(DOE)	%	2.9%*	3.5%	
自己資本当期純利益率(ROE)	%	7.3%	6.3%	
現金等期末残高	億円	4,009	5,132	

* 中間期配当は株式移転交付金として支払。

この後 P9からP11につきましては、
業績推移の比較を容易にするために
欧米子会社3社の決算期変更による
影響を除外し、各年度とも12ヶ月分の
業績として記載しております。



第一三共グループ 主力3品の推移

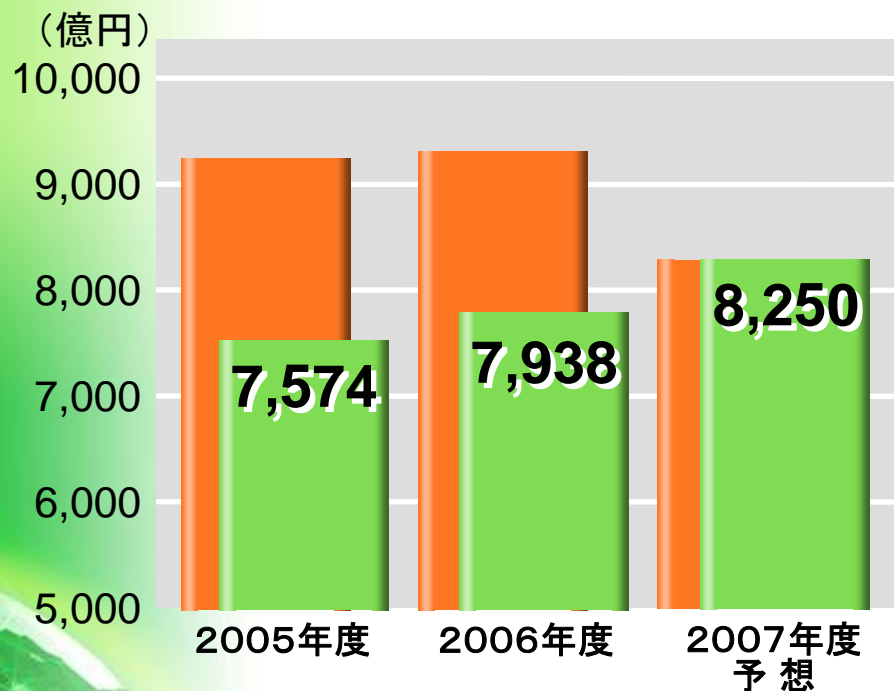


	2005年度	2006年度	2007年度予想
合 計	3,371	3,423	3,735
オルメサルタン	924	1,447	1,890
プラバスタチン	1,432	935	765
レボフロキサシン	1,015	1,041	1,080

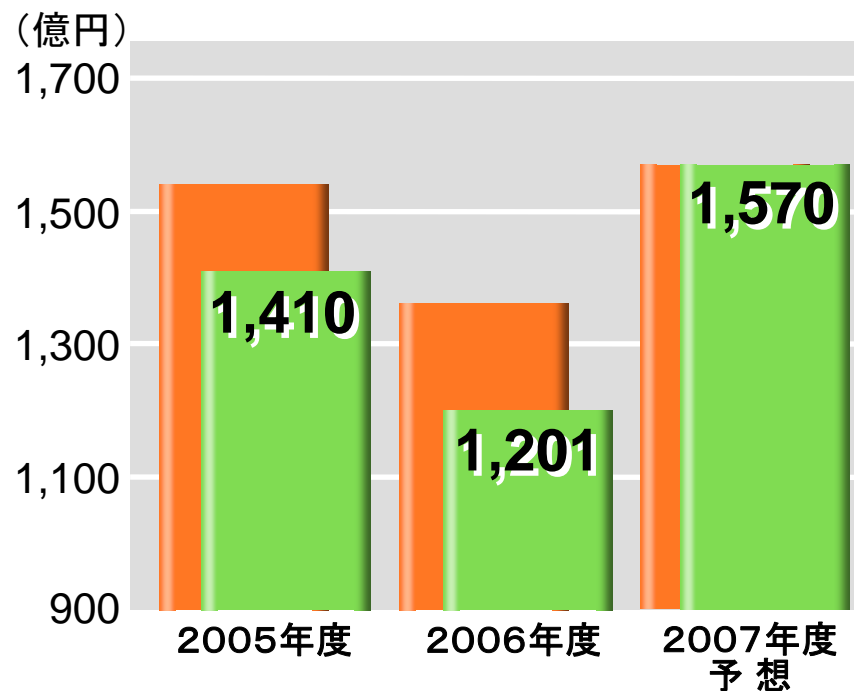
注: レボフロキサシンについてはアジア地域等での売上を含めて過去に遡って再集計。

連結業績の推移(医薬品事業)

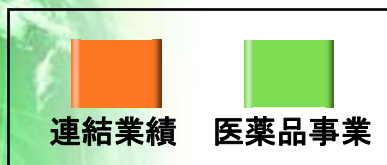
売上高



営業利益

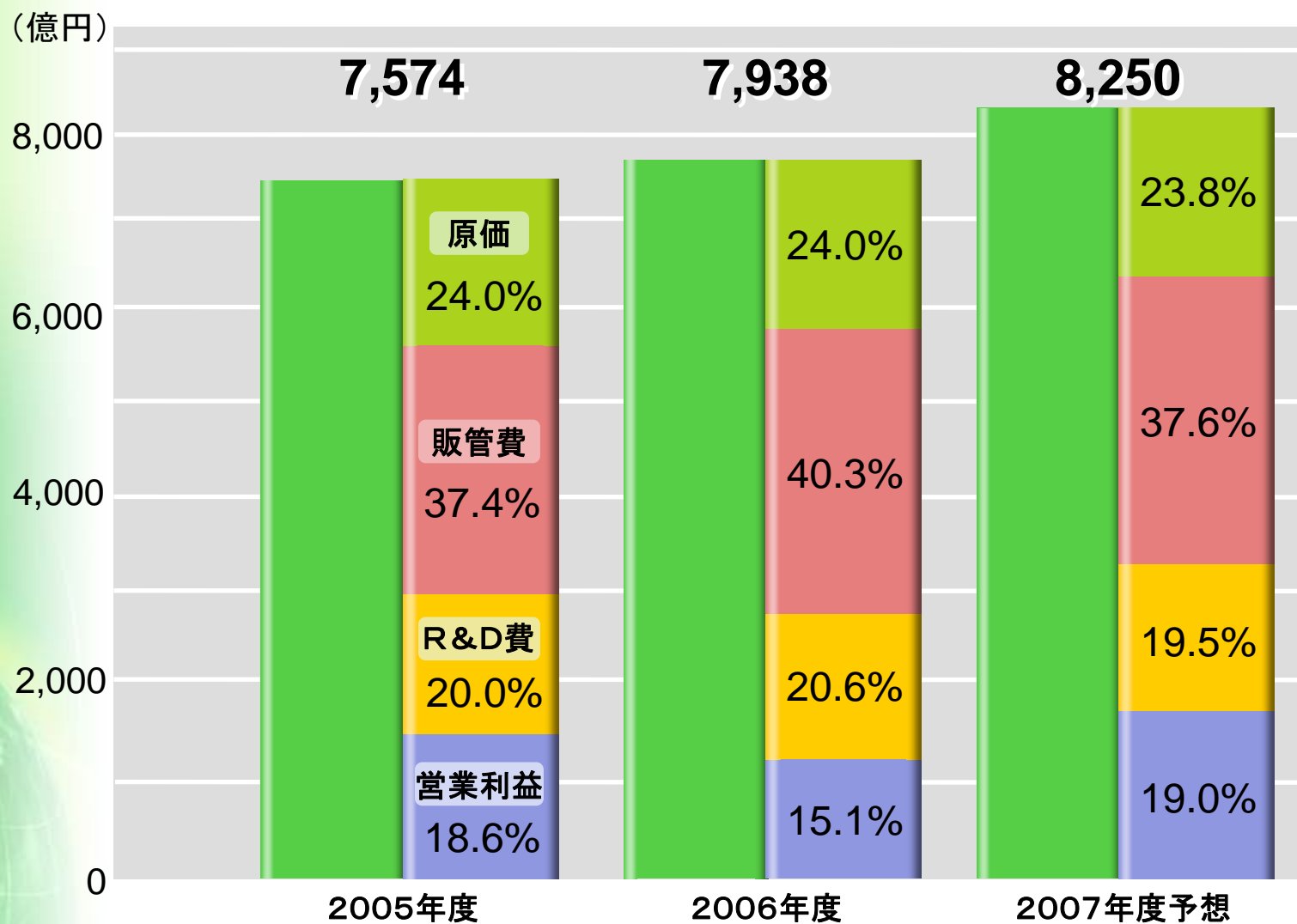


(単位:億円)



(参考)	2005年度	2006年度	2007年度予想
売上高	7,574	7,938	8,250
営業利益	1,410	1,201	1,570
海外売上高比率	38.4%	38.7%	37.3%

医薬品事業の損益構造推移





2007年度の 主要経営課題



第一三共株式会社

2007年度主要経営課題①

■国内営業

- 完全統合初年度からのシナジー効果
- 資源投入の選択と集中による売上計画の達成
- MRクロスワイズ体制と機能連携強化による営業力最大化

■米国事業

- Benicar/Benicar HCTの継続拡大
- CS-8663の上市、WelCholの適応拡大によるさらなる成長の加速
- 新製品の上市と将来の成長を見据えたMRの段階的増員

2007年度主要経営課題②

■研究開発

- 主要プロジェクトの開発マイルストーン達成
Prasugrel (欧米申請)、CS-8663(欧州申請)、DU-176b(P2中間解析)など
- ディシジョンポイントにおける go/no-goの明確な意思決定
- 創薬シーズ獲得への戦略的投資

■ヘルスケア事業

- 大型新製品による成長の牽引
- 既存ブランドのカテゴリー戦略による売上最大化

■経営全般

- CSR経営の推進
- コストシナジーの早期かつ継続的な創出
- グローバル機能軸によるマネジメントシステムの推進



研究開発 パイプラインの現況



第一三共株式会社

主要開発プロジェクトの現況 ①

最優先研究開発課題の進捗

■ Prasugrel (CS-747 抗血小板剤)

- 2007年1月患者登録完了
- 2007年夏に試験終了予定
- 2007年末までに承認申請予定

■ CS-8663

(高血圧治療剤 オルメサルタンとアムロジピンの配合剤)

- 米国: 2006年11月承認申請
- 欧州: 2007年秋承認申請予定

主要開発プロジェクトの現況 ②

最優先研究開発課題の進捗

■ DU-176b (抗Xa剤)

- 欧米: THR(人工股関節全置換術)後の DVT(深部静脈血栓症)を対象としたフェーズ2b試験実施中
- 国内: TKR(人工膝関節全置換術)後の DVT を対象としたフェーズ2b試験実施中
AF(心房細動)を対象としたフェーズ2b試験を開始

■ DZ-697b (抗血小板剤)

- 欧米・国内ともフェーズ1試験実施中
- フェーズ2試験は2007年開始予定

主要開発プロジェクトの現況 ③

ステージ移行の課題(2月以降)

■フェーズ3移行

- CS-011(欧米、グリタゾン系糖尿病治療剤)
- KMD-3213(中国、排尿障害治療剤)

■フェーズ2移行

- レボフロキサシン注(日本、ニューキノロン剤)

■フェーズ1移行

- CS-8958(日本、抗インフルエンザウイルス治療剤)
- DE-766(日本、抗EGFR抗体)

主要開発品目一覧表

	フェーズ 1	フェーズ 2	フェーズ 3	申請/承認
循環器	<u>DZ-697b</u>	<u>DU-176b</u> CS-866RN(#) CS-866CMB(#) SUN 4936h	<u>CS-747</u> HGF CS-866DM (#) CS-866AZ (#)	<u>CS-8663(米)</u>
糖代謝	SUN E7001 (#) AJD101	CS-917	CS-011	ウエルコールDM
感染症	DX-619 CS-758 CS-8958 DC-159a	CS-023 レボフロキサシン注(#)	レボフロキサシン高用量(#) [SUN A0026]	DU-6859a DF-098 (#)(承認)
がん	CS-7017 CS-1008 DE-766(#)			
免疫・アレルギー	CS-0777	CS-712 (#)		
骨・関節		CS-706 SUN E3001 (#)	CS-600G (#)	LX-P(#)
その他	SUN N8075	SUN N4057 CS-088 SUN11031	SUN Y7017 (#) DL-8234(#) KMD-3213 [SUN0588r]	CS-1401E (#)

- #: 日本でのみの開発
- グローバル(日本以外)で開発している課題に関しては、最も進んだステージのみ記載
- []: 導出
- アンダーライン(青字)は現在の最優先プロジェクト

本資料に関するお問い合わせ先

第一三共株式会社
コーポレートコミュニケーション部

TEL: 03-6225-1126

FAX: 03-6225-1132

本資料における将来の予想等に関する各数値は、現時点で入手可能な情報に基づく弊社の判断や仮定によるものであり、リスクおよび不確実性が含まれております。したがって実際の業績等は、予想数値とは異なる結果となる可能性があります。

つくっているのは、希望です。



Daiichi-Sankyo

第一三共株式会社